

「1950年代教育史」研究部会（第31回）

日時：2018年11月30日（金）13:00～15:20

場所：野間教育研究所 2F 閲覧室

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員
金沢千秋・川上智子

欠席：吉久知延所長

内容：（1）米田俊彦研究員報告：「勤評神奈川方式」の概要

◆神奈川方式の成立経緯について、二つの視点から分析を加える

①神奈川県教育委員会サイドの動向を確認

②『神奈川新聞』の記事を参照し、県議会自民党が何をしたのかを明らかにする

※参考文献

・神奈川県高等学校教育会館刊行：『神奈川勤評闘争資料集』（一）～（六）、『教職員の勤評問題と「神奈川方式」』『資料でたどる神奈川勤評闘争 杉山宏』

・神奈川県教育委員会刊行：『神奈川の教育 戦後30年のあゆみ』
（大学管理法問題の参考として）

・「藤井忠俊退学処分をめぐる一東北大・北大イールズ事件と大学管理法問題—イールズ事件の全国的動向と山口大学のレッド・ページについてを朝日新聞記事と山口日日新聞・防長新聞から拾って時系列表作成
（藤井忠俊氏：日本近代史研究家 2018年逝去）

（2）須田将司研究員報告：「教育研究所の実相に関する検討—関東地区連盟および神奈川県の事例について—」

◆個別事例として、関東地区連盟と神奈川県の教育研究所に関する資料調査を報告

・関東地区連盟：1950年10月の「全国教育研究所連盟関東ブロック会議」を端緒（13機関）。1960年には52団体となっている（『関教連30年の歩み』『関教連報』他）

・神奈川県教育研究所：1948年設立（当初は神奈川県師範学校内）
師範学校が横浜国立大学学芸部になるに及び、県教委は独自運営へ
（『神奈川県の教育十五年』『神奈川県立総合教育センター50年の歩み』）

・現在資料調査中『神奈川県教育研究所連盟50周年記念誌』『かながわ教育』、
他に、国立大学（静岡大学・宮崎大学）の教育研究所機関誌、関教連の資料などを予定

・次回研究会は、2019年1月18日（金）13:00～ 大島研究員、鳥居研究員

・次回以降のスケジュール 2019年2月22日（金）13:00～